国際日本文化研究センター研究推進部会シンポジウム

動物愛護運動研究の現在

写真：春藤 献一

2026年2月14日[土]　13時30分～17時10分

オンライン開催（要事前申し込み）

会議言語：日本語（一部英語）

主催：国際日本文化研究センター　共催：ドイツ日本研究所

本シンポジウムでは、日本における「動物愛護運動」を倫理・歴史・社会といった角度から多面的に討究したい。ここでいう「動物愛護運動」とは、人と動物の共生、動物の待遇の改善、保護、法的承認を目的とするあらゆる社会的な活動を指す。日本と海外の研究者が集い、動物の取り扱いをめぐる人々の取り組みを「動物愛護運動」という包括的な用語の下で検討し、人と動物の関係のあり方を見つめ直す。

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構
国際日本文化研究センター
International Research Center for Japanese Studies

Deutsches Institut für Japanstudien
German Institute for Japanese Studies Tokyo (DIJ)
ドイツ日本研究所

国際日本文化研究センター研究推進部会シンポジウム

動物愛護運動研究の現在

2026年2月14日[土] 13時30分～17時10分　オンライン開催（要事前申し込み）

会議言語：日本語（一部英語）

Program

総合司会：春藤 献一（日文研）、Barbara Holthus（ドイツ日本研究所）

13:30–13:35　挨拶　　瀧井 一博（日文研・研究推進部会長）

13:35–13:40　趣旨説明　Barbara Holthus（ドイツ日本研究所）

13:40–14:10　伊勢田 哲治（京都大学大学院文学研究科）

「いただきますの倫理」の由来と日本的動物愛護

日本における肉食を巡る言説として近年目立つのが、「いただきます」という食前のあいさつを「命をいただく」ことと結びつける一連の考え方の急速な普及である。この考えの原型となるような発想は戦前以来の言説の中に見出すことが可能であり、日本的動物愛護の特殊性を理解する上でも参考となる。

14:20–14:50　W. Puck Brecher（ワシントン州立大学人文科学カレッジ歴史学科）

Livestock Care Within and Beyond Japanese “Society”
（日本「社会」の内と外における家畜愛護）

The talk will examine how distinct logics surrounding the concept of ‘society’ (社会) have informed livestock care in Japan, and how these logics have clashed with international animal welfare standards.

15:10–15:40　春藤 献一（日文研）

「動物愛護」という言葉が使われ続けてきたのはなぜか

「動物愛護」という言葉は、明治期に日本で成立した後、「動物保護」や「動物福祉」に取って代わられることなく、今日に至るまで100年以上にわたって使われ続けてきた。本講演では、団体名への採用や法律用語となった経緯など、「動物愛護」に関する重要な議論を振り返りながら、動物愛護の言葉の歴史を考えたい。

15:50–16:20　Barbara Holthus（ドイツ日本研究所）

人とペットの社会学：幸福、孤独、Multispecies Families

1年の間に日本の家庭に入るペットの数は、人の出生数を上回る状況にある。ペットは家族としての扱いを広く受けており、ペットが孤独感の軽減や健康・ウェルビーイング指標の向上に寄与することも実証されている。本講演では、人と動物がともに生きる家族のかたち（Multispecies Families）を社会学的に考えたい。

16:40–17:10　総合討論　司会：春藤 献一（日文研）

予約フォーム　2月5日正午までに下記URLもしくはQRコードからお申し込みください
https://forms.office.com/r/7dxuHkzH7Z

お問い合わせ先　国際日本文化研究センター 研究協力課国際研究推進係
E-mail: suishin@nichibun.ac.jp